

## 3 授業公開

### 1. 企画趣旨

本学では、授業の質的向上を目指す諸活動の一環として、平成 24 年度より授業公開を行っている。原則全ての授業を対象とし、教員のみならず職員も見学可能としている。教員および職員が相互に研鑽を図るために、全学規模の SD・FD 活動として実施したのは平成 24 年度以降のことであり、令和2年年度で 9年目となる。

今年度は新型コロナウイルスの影響が大きく、前年度までとは異なり遠隔授業の見学を基本的なやり方とした。提出方法については、Web上で提出フォームにて提出することとした。実施期間・提出方法をこのように設定することによって、より授業公開が身近に感じられ、これまでとは異なるの参加が見込まれることを期待してのことでもある（無論、コロナに余儀なくされたという面も大きいが）。

例年と同様、教員の多くは所属学科の授業を見学する傾向にあるが、今年度は、演習科目（実習・実験科目も含め）の見学も多くみられた。

見学者より提出された感想は、いずれも示唆に富むものであるが、代表的なものを以下、紹介する。

### 2. 実施概要

#### 【見学期間】

(1)2020 年 11 月 24 日（火）～30 日（月）

心理・文芸文化・社会情報デザイン・生活情報・メディアコミュニケーション・健康栄養

(2) 2020 年 12 月 1 日（火）～7日（月） 食物栄養・食品開発・人間福祉・幼児教育・児童教育

※ 土曜日に開講している科目も見学対象とした。 共通・資格科目については、時間割表に記載のある時限での公開とした。

#### 【申請期間】

2020年11月16日（月）～20日（金）

見学の際は、上記の期間内に、見学対象の授業者へ事前に学内メールにて申請することとした。

#### 【見学対象科目】

原則すべての授業（ただし、コミュニケーション演習、英語コミュニケーション応用を除く）

#### 【見学者】見学者件数のべ 77 名

教員71名（非常勤含む）、職員6名

\*このうち、複数の授業を見学した人数は5名である。

（※ 教員－2授業見学者 2名、職員－2授業見学者 2名、3 授業見学者 1 名、）

#### 【見学方法】教室訪問 51名、 ZOOM 32名。

Zoom ミーティングまたは教室内の見学のうちいずれか、授業担当者の認めた方法にて見学。

#### 【感想】

##### ➤ 「食物栄養学概論」（ZOOMで参加）

【内容】食事摂取基準についての講義【策定の基本的事項】に関する講義（Zoomで参加）

#### 【感想】

「大変にわかりやすいご講義をなさる先生」として、学生から定評がある中岡先生と、オムニバスで食物栄養学概論を分担させていただいたご縁で、今回、拝見・拝聴させていただきました。まずは、導入で、

「大変難しく細かい内容だからこそ、一緒に頑張りましょう」という声掛けをなさり、前回の画像を見ながらの復習、そして若い女性に好まれるPPTの画像、画面構成だけでなく、若い女性をテーマに繰り返し自分の問題として問いかける方法で、スムーズに学生を惹き入れていかれました。大変、穏やかな語り口であっても、学生は寝ることなく、引き込まれていたように思います。また、前半で担当した自分が表現として用いていた言葉を、上手に生かして下さり、オムニバスの有用な方法でありました。大変、教えていただくことの多かった授業でした。ありがとうございました。

➤ 「応用栄養学Ⅱ」（教室を訪問）

【内容】ライフステージの栄養管理の中で、11/25は高齢期の栄養と疾病・病態について解説。Zoomを利用し、パワーポイントは画面共有し、分散授業に対応していた。

【感想】昨年度まで私が担当していた科目なので、つい自分の授業内容と比較してしまった。パワフルな若い先生に、最新の内容を伝授してもらえて、学生は幸せだと感じました。

➤ 「音楽表現基礎技能」（教室を訪問）

【内容】和音の構造とコードネームの解説

【感想】その都度、和音についてのこれまでの復習を兼ねながら、コードネームへと応用されており、非常に分かりやすく勉強になりました。今期の実技科目に関しては、前半グループと後半グループ入れ替え授業、また対面グループとZOOMグループと、同時限に大変複雑な授業の組み立てをせざるを得ない状況であるため、スケジュールやグループ編成、各回の授業内容、ZOOMのための機材使用（ピアノ用とホワイトボード用）等、本当に大変な時間と労力がかけられていることが分かりました。ありがとうございました。

➤ 「ミュージッククリエーション」（教室を訪問）

【内容】幼児教育の場における絵本を題材にしたお話と音楽を使った取り組みについてのグループワーク。

【感想】先生が推奨される絵本や学生達が持ち寄った絵本を通して絵やお話の中から想像される音や音楽をグループ毎に創作して発表する取り組みの一環でした。

先生が例としてお話を読んで下さっている時に、学生さん達が大変集中して聞かれており、一人一人がさまざまな物語やその背景にあるもの、または音をイメージして感じ取っていることが受け取れて、こうしてコロナ禍でオンライン化が進む中でも、実際に五感を大切にすることで多くの事を感じ取る事、想像力を働かせる事の大切さを思いました。

友人同士で会って話し合ったり気持ちを共有して協力する事も学生さんにとっていつもに増して大切な時間かと思われまます。

家庭でも幼児教育の場でも、昨今は電子化された便利なおもちゃも増えましたが、色や音、感情…そういった物を実際に触れたり感じて大切に続ける事が今後、より一層大切になるのではないかと思います。

見学させて頂き大変勉強になりました。どうもありがとうございました。

➤ 「くらしのなかの日本国憲法」（教室を訪問）

【内容】憲法 法罪人についてのご講義。

【感想】難しいテーマの授業だと思っていましたが、学生の生活につながるような例をあげて説明して下さり、とても身近なこととしてとらえることができるお授業でした。自由権については、最近のニュースをとりあげ説明して下さり、理解しやすかったです。学生たちは授業が始まるまでガヤガヤしていましたが、穏やかな授業が始まった瞬間、姿勢を正し、耳を傾けていました。授業の空間がとても心地よく、法律を笑いながら聴講できるのは学生にとって効果的だと感じました。ありがとうございました。

➤ 「ソーシャルワーク論Ⅰ」（教室を訪問）

【内容】「学校インターンシップの意義と心得、実施に向けた具体的な解説」及び「配置校ごとの打ち合わせ」。

【感想】ワイヤレスマイクがない教室なので、有線マイクを差し込む、首から下げるホルダーを用意して、両手が空いた状態で講義されているのが印象的でした。小さな教室にもワイヤレスマイクがあると、教卓

に縛られずに、もっと自由に講義ができるのにと、改めて感じました。

➤ **「教職発展演習」**（ZOOMで参加）

【内容】「学校インターンシップの意義と心得、実施に向けた具体的な解説」及び「配置校ごとの打ち合わせ」。

【感想】児童教育学科の学生は、学校インターンシップを通して学校の実情を理解し、自身の教職への志を確かなものにしていく。本日の授業では、連携市の小学校でどのように行動すれば学生が教員として求められる資質を高めることができるのかがはっきりと伝わる解説がなされた。記録の取り方や、様々な書類の提出方法なども一度に明快に指示された。配置校ごとの打ち合わせは、先輩として1年生を指導することで2年生がさらに成長できるように構成されていた。学生が見通しをもって主体的に動けるよう考えられた見事な指導であった。

➤ **「情報処理演習Ⅱ」**（教室を訪問）

【内容】情報機器に関する表計算ソフトの基本操作と総合課題演習

【感想】前半は、カレンダー作り。後半は、成績処理。大変身近な場面を想定して、楽しみながら基本操作を身に付けさせていた。関数の意味づけや多様な関数式を取り入れながら進めているところに、学習の楽しさを学生は味わっているようであった。今回学んだことを、小中学校教諭の事務処理に活用できるようになることを期待したい。

➤ **「子どもの発達と環境」**（教室を訪問）

【内容】第2言語の獲得に関する解説。第2言語を獲得する時期は早い方がよいのか、母国語の獲得との違いは何か、第2言語環境で育つ子どもの言語発達の特徴について説明があった。「バイリンガルを育てるには早い時期からの教育が必要なのか？」という学生からよく寄せられる質問について、回答するために授業が計画されたとのことであった。様々な先行研究を挙げ、獲得される言葉の領域やそれを調べる方法によって結果が異なることを挙げ、必ずしも「第2言語の教育が早い方がよい」と言えない理由を説明していた。

【感想】今回、授業を見学させていただいた大きな目的は、講義科目のハイブリッド授業の進め方を一度見ておきたいと思ったからです。私自身は後期に実習・演習科目しかないため、まだ一度も講義科目をハイブリッドで実施したことはありませんでした。

感想として、まず、FormやPPTの共有の準備、ZOOMでの招待、パソコンの不具合の連絡への対応など、授業開始15分前から行っている様子を見て大変なんだと感じました。。また、授業で話している最中に遅刻する学生やWi-fiが切れてしまった学生が何度も入ってくる状況で、参加を承認しながら授業を進めている先生の姿を見て、来年できるか不安になりました。

一方、どちらの学生にもこれから話す内容について、現時点でどう思うかをFormを用いて質問し、それを共有してから授業に入るのは、学生たちが考えていることと実際のデータがどのように異なるのか、どのような視点が不足していたかを知るうえで、とても役立つと思いました。Formでの共有であれば、対面でも遠隔でも学生たちの意見を聞けるので、便利だと思います。私も授業で取り入れてみようと思います。遠隔で授業を受けている学生への配慮ももちろんですが、基本的にPC前から動けなくなってしまうため、対面の学生さんとの相互作用も課題だなと感じました。

最後に、授業はとても楽しかったです。私たちが一般的に想像する「バイリンガル」や「第2言語の獲得」にステレオタイプがあり、読む、書く、聞く、話すという言語の能力の領域によって研究結果が異なると想像していなかったのが非常に驚いたし、説明を聞いて納得しました。また、母国語を基盤とするだけでなく、様々な要因が相互に影響し合いながら、第2言語の獲得されやすさが異なるのも興味深かったです。もう一度大学生に戻りたいなと思いました。本当にありがとうございました。

➤ **「図画工作」**（教室を訪問）

【内容】対面学生：石鹸の泡をつかった創作（グループワーク）、遠隔学生：各自写真を取りに行く-次回の教材集め（個人での活動）コメは肥満や糖尿病の原因になるか

【感想】

- ・分散登校のため、対面学生にはグループでの活動を、遠隔の学生にはZOOMにてテーマと指示を与えて個人で取り組む活動に行っていました。
- ・過去に行った授業、またはこの先取り組む内容との関連性を意識された授業で、計画的な授業の組み立てと感じました。また、対面時に大切にされている材料の感触や扱い方、仲間との協働などと遠隔時に意識されていること（じっくり考えること、取り組むこと）にじっくり説明する時間を設けられていました。
- ・1年生が受講する授業で必ず図画工作は触れるものですが、今まで学んできた「図画工作」の概念をまっさらにして、作る楽しさや気づき、発見を学生自らがすることにより、現場の子どもたちへの「創作の楽しさ」「仲間と作る喜び」を体験できる教師になるよう、工夫をされていました。
- ・前期が遠隔で、実際に1年生にとっては後期が初めて同級生と顔を合わせるようになりますが、対面の学生たちは和やかな雰囲気の中、いろいろなアイデアを出して、「楽しそう」に授業に参加していました。
- ・先生が遠隔学生に指示を与えている間、対面学生が先生に話しかけることなく準備を完成させていたのが印象的でした。

➤ 「初等図画工作科教育」（教室を訪問）

【内容】対面学生：土粘土を使ったグループワーク（マルマル帝国を作る）、遠隔学生：水彩絵の具を使って絵を書く

【感想】

- ・児教2年生の授業の為、とても和気あいあいとした授業でした。
- ・対面学生の扱う「土粘土」はずっと使い続けられているもので、取り出し方、片づけ方などの説明がありました。取り出すのも一苦労ですが、学生たちは泥を付けながら底までしっかり全部取り出していました。本日のテーマについて先生が説明をする前に作り始めてしまう学生グループもありましたが、準備がまだ終わらないグループを助けている学生もいました。まとまりがあると思いました。
- ・遠隔学生は、前週の登校時に水彩絵の具の使い方の教授があったとのことで、個人の活動で「絵を書く」指示がでておりました。どのような絵を書くか、どんなことに気を付けるかなどZOOMで時間をかけて丁寧に先生が説明されているのが印象的でした。また、その間、対面学生が先生に話しかけず、また必要な材料が先生の近くにありましたが、遠隔学生への説明が終わるタイミングを見計らって取りに行っているようにも見えました。（邪魔しないようにも見えました）
- ・学生たちの話の話題も、「創作しているもの話」に限定されているものも印象的で、集中している中にも意見を出し合う活発さをみました。
- ・授業計画をみても、対面、遠隔それぞれでの活動が関係づけられていて、工夫されていらっしゃると思いました。

➤ 「病態生理学」（ZOOMで参加）

【内容】循環器系の構造および機能に関する解説（オンデマンド型授業）

【感想】

冒頭の20分程を視聴させていただきました。

人体の構造と機能を学ぶという授業の性質上、暗記を前提とした授業構成であることを体感致しました。解説の合間にマメ知識や小話を挟んでいただいていた点が頭の息抜き且つ参考となりましたが、90分間一貫して知識を詰め込むことを思うと、学生の理解度が気になりました。（特にオンデマンド型は学生の反応が分からずどうしても一辺倒になりがちであるため、より授業への参加・理解を求める際には、ワ

ークやアイスブレイクを取り入れるなどの緩急付けが課題となるかと思いました)  
動画を繰り返し視聴できる点や、トランスクリプトを追うことが出来る点では、反復復習に効果的と感じ  
ます。  
大変参考になりました。授業参加の機会をいただき、ありがとうございました。

### 3. まとめ

実施期間中に各教員は1つ以上の授業を見学し、見学記録を提出することにした。本年度の見学者数はのべ77名であった。昨年度ののべ見学者が67名であったことと比較するとやや増加したと言える。オンラインでの授業公開をしたことは、アクセシビリティを向上させたと考えられる。

提出された感想を概観するに、オンライン授業という新しい経験の中で、他者の授業が参考になったと思われる。それも今回の見学者数の増加であったと考えられよう。

授業公開は「教員相互で授業を公開することにより、授業の質的向上を図るための一手段」と定義される。そのような目的は今回果たされているように思われるが、課題もある。今後はそこで共有された授業方法について、見学を行うことができなかつた教員にもシェアできるような仕組みを作っていくことが目指される。また、そのようなメリットが周知されることによって、授業見学を行う教職員をより増加させていくことが目指される。